

こころをつなぐ まちづくり



人権シリーズ vol.161

今なお残る似た差別

2001年にはハンセン病元患者が誤った隔離政策で直接被害を受け、そして今回もハンセン病元患者家族が受けた偏見・差別の被害は、この間の政策に原因があることを認め、国は謝罪しました。10月からの臨時国会で元患者家族への補償の枠組みや差別解消に向けた啓発方法などが議論され、法律が作られるのでしょうか。そもそもハンセン病とはどういう病気でしょうか？

ハンセン病は、らい菌という細菌に抹消神経や皮膚が標的にされ、体の中の比較的温度の低いところ(手足、顔、耳たぶなど露出した部位)に症状が現われます。このためハンセン病は、全身を包帯で巻かれた状態が象徴的に描かれたりします。国は、ハンセン病を「業病^{ウチヤク}」(前世の悪事の結果であるという考え方)と流布し、子孫に遺伝し、強い感染力があると国民に宣伝し恐怖を植え付けました。加えて、「無らい県運動」と称し、該当者が近所にいれば自治体に通報するよう国民に義務付けました。

1940年代には病気が完治する特效薬「プロミン」が開発された

にも関わらず、国は1996年の「らい予防法」廃止まで隔離政策を続けた結果が、上記裁判に繋がっていきません。私に言わせればまさしく国の不作為であり、裁判沙汰になったのは仕方ないことだったのかもしれない。

松本清張が1960年代に小説「砂の器」でハンセン病を扱いました。これを原作に映画やテレビで何作も役者を替えて放映されましたから、皆さんも御存知かも知れません。私も最近あらためて1974年作のDVDを借りて観ましたが、差別の厳しさが伝わってきます。家族にハンセン病当事者がいることを隠しながら生きる、暴かれぬように殺人さえも厭わぬ、という内容です。

さて、この間ハンセン病問題に関わってきたお二人の「大家」というか「闘士」から講演を聞く機会がありました。ひとりは訴訟原告団長で教員もしていた林力さん(95歳)〓福岡市在住〓、今ひとりは上記の訴訟の弁護士(75歳)〓別府市在住〓です。こんな言葉が印象に残っています。

林さんは、父がハンセン病患者として療養所に強制収容されます。父

から「ハンセン病のことは絶対に他言するな」と言われます。しかし、学校で同和教育をする中で「父を語らないこ

とは父を否定することになる」ことに気づき、父のことを公表します。林さんは「差別から逃げると差別は追いかけてくる、立ち止まると差別は逃げていく」と話されました。また、「恥でないことを恥にすると本当の恥になる。恥ずかしいことだ」とも。

徳田弁護士は、家族訴訟原告団561人の多くが匿名で参加したことについて、「隠しながら生きざるを得ないという状況を抜け出していける社会にしたい」と、引き続き弱者に寄り添っていく、と話していました。

2001年、小泉総理が「控訴せず」で勝訴したハンセン病元患者裁判。それ以降、気になり続けていたハンセン病問題。差別や偏見で就職や結婚がままならないハンセン病患者やその家族。今なお残る部落差別によく似ている。

(文責：教育委員会安岐分室・本多)



市長室から

こんにちは

市長日記

101

「秋の気配」

国東市長 三河明史



お盆が過ぎて、台風が過ぎると急に日差しが柔らかくなり、朝夕も冷え込んで参りました。夜、ふと気がつくと、窓のカーテンの間から、月の光が私の寝ている部屋に忍び込んでおり、知らぬ間に秋の気配が漂っています。

お盆の終戦の日、8月15日は、国東市の成人の日でもありません。しかし、今年は台風の接近で、1日順延し、16日に開催いたしました。今年の新成人は、304名。うち220名が市内外から出席してくれました。

私が、古稀ですから彼らとは、50歳が違うことになります。50歳ですよ50歳。半世紀も年の差があると思うと、愕然としますね。しかし、若い澁刺はらうとした姿は見ていて良いものですね。うらやましくもあります。

ところで、昨年1年間に国東市に生まれた子どもの数は、126人。今年の新成人の半分以下です。ちょうど20年後の成人式は、どうなるのでしょうか。

若い人達は、早く結婚して子どもを出来るだけ沢山育てて欲しいですね。国東市では、保育園は待機児童もありませんし、医療費は中学生まで完全無料、高校生は入院費無料です。保育料と幼稚園使用料は完全無料、小学校と中学校に上がるときには、祝い金の支給など、昔に比べれば、本当に充実した育児環境を用意しているのですから。

もちろん少子化は国東市だけに限った話ではなく、日本全体が少子化なのです。この極端な少子化の状況が続けば、国は着実に衰退に向かって行くでしょう。



国東市の地域包括ケアシステムの取り組みが表彰されました



8月30日に厚生労働省九州厚生局の主催による「九州・沖縄地域包括ケア推進フォーラム」が福岡県で開催され、国東市における地域包括ケアシステム構築の取り組みが、**地域包括ケア大賞の優秀賞(市町村の部第2位)**として表彰されました。特に、住民主体による地域づくり活動や週一元気アップ教室等の取り組みが高く評価されました。みなさまの介護予防事業の取り組みに感謝いたします。

今回の受賞を励みに、これからも国東市は**高齢者が住み慣れた地域で元気に過ごせるまちづくり**を目指してまいります。



【問合せ先】高齢者支援課 ☎0978-72-5189